

森の日記 2022年9月4日から12月18日まで

by 迷鳥キツキ

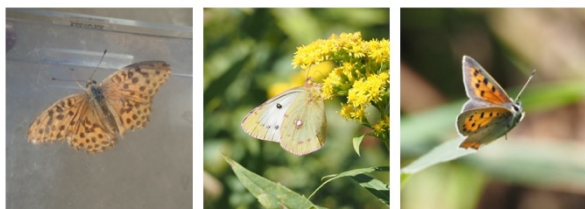
9月4日の午前中は植生復元試験地 に移植した植物や播種後発芽してきた天然植生の植物の生育状態の調査を行い、その後それらの植物の生育を阻害する生育旺盛な雑草の除去を行いました。植生復元試験地は自衛隊の滑走路の延長上にあるため、森林が一旦伐採されたのち、オオアワダチソウなどがはびこるようになったので、オオアワダチソウを除去したのちに、周りの森林から自然植生の植物を導入している場所です。雑草との戦いはなかなか大変です。



左：活動開始前の説明。

右：オミナエシ。

9月11日は午前中にモニタリングサイト 1000 のチョウの調査、午後に植物調査を行いました。快晴でしたが気温が9時の開始時には16℃くらいだったので、最初はチョウがあまり現れませんでした。しかし時間の経過とともに、ヒョウモンチョウの仲間、モンキチョウ、モンシロチョウ、ベニシジミなどが比較的多く現れました。



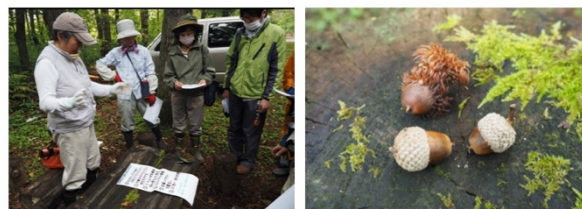
オオウラギンスジヒョウモン、モンキチョウ、ベニシジミ

植物調査では秋も深まってきたので実を結んでいる植物も多くなってきましたが、ひとつひとつ名前を確かめながら歩きました。調査の終わり頃、畜大の元植物学の教授のK先生にお会いしました。K先生も個人的に植物を調査に来ておられたようです。



イチゲフウロ、ミズナラのドングリ、チゴユリ

9月18日はエゾリスの会が10月16日に主催するトヨタソーシャルフェスのための準備をしました。フェスでは森の中のチョウセンゴヨウの実生および幼木を除去するのですが、そのための実施場所の選定と実施場所までのルートの確保、森の中の危険な腐朽木の除去、蜂の巣の確認などを行いました。



左：朝の打ち合わせ。

右：カシワとミズナラのドングリ。

9月25日はエゾリスの会のチョウの調査に参加しました。気温が低くなってきたため朝10時の開始でした。ヒョウモンチョウ類は最初に2頭見ただけでその後は現れませんでした。草地で一番たくさん見たのはモンキチョウでした。その他ベニシジミ、クジャクチョウ、スジグロシロチョウ、モンシロチョウなどもありました。遊歩道沿いの池ではマユタテアカネを見ました。集合地点付近の調査路沿いでは、先日の台風に伴う強風のためチョウセンゴヨウが幹の途中から折れ、今年熟した実がたくさんちらばっていました。



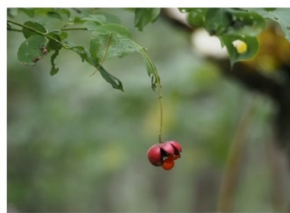
左：調整池の付近での活動。右：池3にいたマユタテアカネ。

10月2日は早朝にエゾリスセンサスが、午後から植物調査が行われました。私は所用のためエゾリスセンサスの方は欠席し、午後の植物調査に参加しました。そこで伊藤さんのメールをお借りします。「昨日の朝のエゾリス・センサスでは合計27頭を確認できました。冬支度で大忙しで私たちのことなんか構ってられない様子でした。午後からの植物相調査では、ドロノキは丸坊主、雪虫ともばったり遭遇。季節は確実に進んでいますね。」



左：帯広の森のヤマブドウ

右：はぐくむの森にて



左：エゾヤマザクラの落葉

右：ツリバナ

10月16日はエゾリスの会主催、北海道新聞社後援、トヨタ自動車協賛のトヨタソーシャルフェスが帯広の森内のエゾリスの会のいつもの活動場所で行われました。朝のうちは濃霧が垂れこめていましたが行事の本番が始まる10時少し前にはすっかり晴れました。北海道新聞社を通じての募集で来てくださった方は30名ほどでしたが他にJICAの研修生が10名参加してくれました。全て違う国から来たという多様なメンバーでした。行事の内容は会員による帯広の森の育樹活動と森の動植物の説明を行なったのち、森の中のチョウセンゴヨウの幼樹の引き抜き作業を行いました。広葉樹を主体とした十勝の本来の森の姿にしていくなために、チョウセンゴヨウを減らすことが必要なので、外国からの研修員たちも楽しめたようで良かったです。

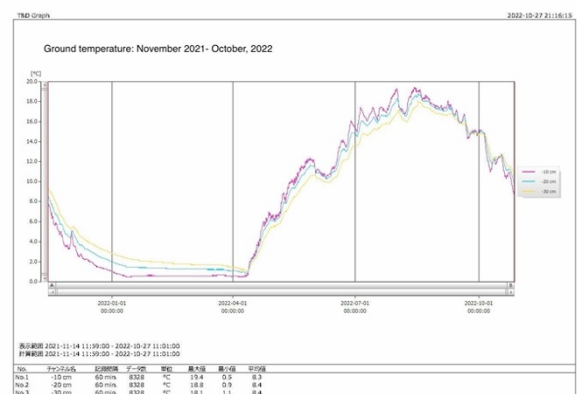


左：エゾリスの会の説明



右：森の中で作業中

10月27日はエゾリスの会の集合地点に設置してあった温度ロガーから過去約1年間の気温と地温のデータを読み出し、電池等を交換して再設置しました。その結果、森の中では冬期間の地温がずっと0℃以下にならなかったことに驚きました。これは地表が落葉で覆われていることや植生が寒気を和らげてくれること、地表下での生命活動が活発であることなどによるものと考えました。



上：約1年間の深さ10, 20, 30cmにおける地温の変化。

11月13日は間伐を行いました。自衛隊の滑走路の延長上にあるため一旦樹木が伐採された区域において、樹高制限に抵触しない範囲で自然植生を回復させようとしています。この活動区域では主にカシワとシラカバの再生を目指しているので、それらの生育の支障になるヤナギの木を間引きしました。天然の林床植生の再生のためには日陰も必要なので、必要以上に間引きをしないように注意して間引く木を選びました。10月16日のトヨタソーシャルフェスに参加してくれたJICAの海外研修生の皆さんが再び参加してくれました。この活動が良い思い出になってくれたらうれしいと思います。



左：休憩時間



右：集合写真

11月26日には十勝・市民「環境交流会」が十勝プラザで開催され、エゾリスの会もパネル展示を行いました。内容は先日のトヨタソーシャルフェスの活動を中心とし、その他文書でいつもの活動内容を紹介しました。どのグループの発表内容も意欲的で素晴らしいものが多かったです。あいにく天気が良くなく、訪問者の少なかったことが残念でした。

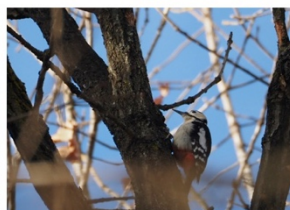


左右ともにエゾリスの会のパネル展示。

12月11日には朝9:00からモニ1000の鳥類調査会が行われました。11人が3班に分かれて調査し、2時間弱で調査コースを1周しました。快晴で気温も出発時にマイナス2.3℃とそれほど低くなく快適に歩くことができました。シメ、カケス、シジュウカラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラなどのカラ類、アカゲラ、ヒヨドリ、ヒガラ、トビ、カラス類などを観察できました。



左：第1班出発



右：アカゲラ

12月18日は今年最後の活動として観察小屋の掃除、丸太切り、冬至祭などで1日を過ごしました。観察小屋の掃除では巣箱に作られたスズメバチの巣の片付けや窓拭

き、床掃除を行いました。丸太切りはチェーンソーを使える人や使い方を習いたい人たちが行いました。昼少し前から、切れ目を入れた丸太を燃やすスエーデントーチという方法で調理を行いました。皆が持ち寄った様々な具材を入れて美味しい鍋料理ができました。昼食会の後は、焚火を囲んで日没直前まで語り合い、楽しい1年の締めくくりの会となりました。



左右ともに冬至祭の様子

私の個人ホームページ

<http://timetraveler.html.xdomain.jp>

でも活動の様子を報告しています。スタート画面の「エゾリスの会」という青いボタンを押してください。